

## 平成24年度緑地管理研究会について

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成24年度緑地管理研究会は、平成24年10月25日に、緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会の開催に先立ち、第一ホテル両国で開催されました。

今回の研究会には、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー関係者15名、試験場関係者31名、農薬会社等関係者89名ほか、計149名の参集が得られました。

当協会では、水田畦畔、農道等の農耕地周辺や、道路路面、鉄道沿線などの場所を対象に、それぞれの管理目的に応じ、植生を枯らすことなく雑草の伸長を長期間抑制することを目的とした除草剤の開発・利用に関する試験研究に取り組んでおります。平成19年度からは、緑地管理分野における除草剤を主体とした薬剤の効率的な利用を目的として、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー各社による現地試験が実施され、毎年研究会を開催しております。

今回の研究会では、ユーザー各社の取り組み紹介に加え、農薬会社から緑地管理用薬剤が紹介されました。

今回取り組みを紹介していただいたユーザーは、中日本高速道路株式会社東京支社、西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社、東日本高速道路株式会社関東支社、九州電力株式会社であり、農薬会社は、株式会社エス・ディー・

エスバイオテック、日産化学工業株式会社、丸和バイオケミカル株式会社、石原バイオサイエンス株式会社、日本カーリット株式会社でした。

ユーザー各社の取り組み紹介では、中日本高速道路東京支社から芝生を含む草地管理における新たな薬剤の組み合わせによる現地実証試験について、西日本高速道路エンジニアリング九州から沖縄自動車道におけるギンネムの防除に関する取り組みについて、東日本高速道路関東支社から土壌処理型抑草剤を使用した新たな草地管理手法について、九州電力からクズの被害実態と防除に関する取り組みについて報告されました。

農薬会からは、各社の主な取扱い薬剤について、特長、登録内容、上手な使い方等が紹介されました。



緑地管理研究会の様子